

医学系研究科・看護学専攻(博士前期課程) アセスメントプラン

1. アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学修支援の改善を継続的に行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートについては縦断的な調査を行うことにより、総体としての学生の状況だけでなく、個々の学生における能力や学修状況の変化を追跡する。これにより、成績評価の結果や学籍異動の状況に関するデータと併せて分析することで、個々の学生に対する学修支援の改善を行い、標準履修年限での修了率を向上させる、休学・中退や成績不振の予測などへの活用を図る。また、社会への説明責任を果たすため、アセスメントの結果は可能な限り公開する。

2. 達成すべき質的水準

看護学専攻の学生が達成・到達すべき質的水準は、看護学専攻のディプロマ・ポリシー(学習の到達目標)に定める(下記参照)。

数値目標: 2年間での修了率50%以上、3年間での修了率90%、学生評価によるカリキュラムの満足度85%以上。

医学系研究科・看護学専攻のDP							
1. 専門領域の高度な専門知識と看護理論を看護実践に活用できる。 2. 看護実践の中で生じる問題に対して、倫理的な判断とエビデンスに基づき高度な看護が実践できる。 3. 看護実践、看護教育、看護研究の発展を目指して、自らの能力を向上していくことができる。 4. 看護実践の中で生じる疑問に基づき、研究を実施し、公表できる。 5. 医療チームにおけるリーダーとして、メンバーの役割を理解し、メンバー同士の協働・連携を促進することができる。							

番号	名称	時期・頻度	対象(学年)	主な質問項目と内容等 (対応DP含む)	手法	実施責任者	結果の活用方法
1	学生受入に関する調査	毎年4月	新入生	APの各項目	志願者数、合格者数、入学者数、など	学務委員会	入学選抜方法の改善や、適正な入学定員の検討に資する。
2	単位修得と修了年次の調査	毎年4月 (集計: 毎年3月)	全学年	各科目の成績と単位修得状況の確認、学修の状況の確認	修了生一覧で確認	学務委員会	各科目の成績と単位修得状況を学務委員会で確認し、修学上の問題点の抽出と可能な改善策の検討、自己点検・評価に用いる。
		毎年3月	修了予定者	修了(学位取得)までにかかる年数	修了生一覧で確認	学務委員会	全修了生の学位取得にかかる年数を学務委員会で確認し、問題点の抽出と可能な改善策の検討、自己点検・評価に用いる。
3	休退学調査	毎年4月 (集計: 毎年3月)	全学年	修学状況、単位修得状況、勤務の状況、など	休学者・復学者、退学者等の調査	学務委員会	特に休学の理由について把握し、問題がないか確認する。
4	カリキュラム評価アンケート	毎年 前期・後期	全学年	カリキュラム全体の満足度	Webアンケート	学務委員会	結果を学務委員会にて検討し、授業方法の改善や次年度以降のカリキュラム編成、自己点検・評価に用いる。

5	リサーチワークの進捗に関する調査	毎年3月	全学年 (修了予定者を除く)	年度初頭に提出した指導計画書の自己評価	Webアンケート	学務委員会	全学生の学位取得に向けた進捗状況を学務委員会で確認し、問題点の抽出と可能な改善策の検討、自己点検・評価に用いる。
		研究計画発表会後	研究計画書提出者	リサーチルーブリックによる自己評価			独自のリサーチルーブリックによって、研究活動の進捗状況を可視化し、経年的に比較して問題点の検討、自己点検・評価に用いる。
	リサーチワークの成果に関する調査	修士論文審査後	修了者	リサーチルーブリックによる自己評価と教員による評価		学務委員会	独自のリサーチルーブリックによって、学位論文の質を確認し、リサーチワークの成果が十分に達成できているかを検討する。また、自己点検・評価に用いる。
6	DPルーブリック調査	毎年3月	全学年	DPの全項目の習得度についてDPルーブリックによる自己評価	Webアンケート	学務委員会	独自のDPルーブリックを用いてDPの修得状況を確認し、学修支援および授業方法やカリキュラムの改善や自己点検・評価に活用する。
7	修了予定者アンケート	毎年1～3月	修了生	・カリキュラム、学生支援、施設設備等の満足度 ・在学中の状況、など	Webアンケート(学生による自己評価)	学務委員会	結果を学務委員会にて検討し、次年度以降のカリキュラム編成および学生指導体制の改善、自己点検・評価に用いる。 改善できるものは早急に対応する。
8	県内の保健医療従事者 看護学科卒業生	5年ごと	大学院進学を考える保健医療福祉従事者	・大学院で学びたいこと ・卒業後/修了後のキャリアパスについての希望、など	Webアンケート	学務委員会	結果を学務委員会にて検討し、中長期的なカリキュラム改編に資する。また、自己点検・評価に用いる。
9	修了生への意見聴取	5年ごと	修了生 (修了後3年以降が対象)	・カリキュラムの課題と改善点 ・学修成果を活用しているか ・勤務や資格取得の状況	アンケート(質問紙ないしWeb)ないしヒアリング	学務委員会	結果を学務委員会にて検討し、中長期的なカリキュラム改編に資する。また、自己点検・評価に用いる。
10	修了生の就職先の保健医療行政機関等への意見聴取	5年ごと	修了生が勤務している県内医療機関	・教育目標や学修成果の点検、など	アンケート(質問紙ないしWeb)ないしヒアリング	学務委員会	結果を学務委員会にて検討し、長期的なカリキュラム改編に資する。また、自己点検・評価に用いる。

## 大学院 博士前期課程 学修達成度自己評価 DPルーブリック

- この評価表は、ディプロマ・ポリシーに示された資質・能力の修得に向かってのかを、定期的に自己評価するためのものです。
- 横軸には修得が求められる資質・能力のレベル、縦軸には5つのディプロマ・ポリシー、マス目で区切られたそれぞれのセルには各レベルやディプロマ・ポリシーに対応したパフォーマンスの達成が表れるものが書かれています。
- 各学年の終了時である毎年3月上旬までに、本表の該当するセルに○印を記載して自己評価してください。
- このカリキュラム・ルーブリックは、毎年3月下旬～4月上旬の指導教員と年間計画を立案する際に使用します。自己評価結果をもとに、ディプロマ・ポリシーに示された資質・能力の修得に向け、新たな自己の課題を明確にしたり、前回の評価を振り返って自分の成長を確認していきます。

ディプロマ・ポリシー			評価の基準				
No	項目	細項目	4	3	2	1	0
			応用レベル	実用レベル	ミニマムレベル	スタートレベル	克服すべきレベル
1	専門領域の高度な専門知識と看護理論を看護実践に活用できる	専門領域の高度な専門知識と理論の習得とそれに基づいた看護実践	専門分野に関する知識・理論が十分に説明でき、あらゆる看護実践の場面で活用することができる	専門分野に関する知識・理論がある程度説明でき、看護実践につなげて考えることができる	専門分野に関する知識・理論の基礎・基本が説明でき、専門分野に関する情報を自力で収集することができる	博士前期課程で学修できる専門分野の概要を知っており、これまでの実践とのつながり(系統性)を理解している	博士前期課程で学修できる専門分野とこれまでの実践との関係が理解できていない
2	看護実践の中で生じる問題に対して、倫理的な判断とエビデンスに基づき高度な看護が実践できる	倫理的判断とエビデンスに基づいた看護実践	看護実践の中で生じるあらゆる問題に対して倫理的判断とエビデンスに基づき、適切な看護実践を行うことができる	看護実践の中で生じる問題に対して倫理的判断とエビデンスに基づき、看護実践を検討することができる	看護実践の中で生じる問題に対して必要な倫理的判断とエビデンスを説明することができる	看護実践の中で生じる問題に倫理的判断が必要となることを理解している	看護実践の中で生じる問題に倫理的判断が必要となることが理解できていない
3	看護実践、看護教育、看護研究の発展を目指して、自らの能力を向上していくことができる	能力向上を目指して学び続ける	看護実践、看護教育、看護研究の発展のために何ができるかを自覚し、主体的に看護へ貢献しようとする強い意思と意欲をもっている	看護実践、看護教育、看護研究の発展のために自身の能力を生かして何ができるのかを真摯に探ろうとしている	看護実践、看護教育、看護研究の発展を目指して、自身の能力を計画的、継続的に身につけようと努力している	看護実践、看護教育、看護研究の発展を目指して、自身の能力をどのように身につければよいかを主体的に探ろうとしている	看護実践、看護教育、看護研究の発展を目指す必要性を理解していない
4	看護実践の中で生じる疑問に基づき、研究を実施し、公表できる	看護実践に対して研究的視点で臨むことができる	看護実践の中で生じた疑問を研究手法を用いて、解き明かし、結果を社会に公表することができる	看護実践の中で生じた疑問を研究手法を用いて、解き明かすことができる	看護実践の中で生じた疑問に対して、その疑問を解き明かしていくための方法を探ることができる	看護実践の中で疑問を持ち、その疑問を解き明かしていく必要性を説明できる	看護実践の中で何が問題となるのか気づくことができない
5	医療チームにおけるリーダーとして、メンバーの役割を理解し、メンバー同士の協働・連携を促進することができる	リーダーとしての役割の理解とメンバー同士の協働・連携の促進	保健医療チームにおけるリーダーとして、メンバーの役割を理解し、メンバー同士の協働・連携を促進し、高いチームパフォーマンスを示すことができる	保健医療チームにおけるリーダーとして、メンバーの役割を理解し、メンバー同士の協働・連携を促進するかわりができる	保健医療チームにおけるリーダーとして、メンバーの役割を理解し、リーダーとしてチームにかかわることができる	保健医療チームにおいてリーダーシップ、メンバーシップの役割を理解している	保健医療チームにおいて自身がリーダーシップをとろうとする意思や意欲を欠いている